河畔林をつくるヤナギ

ヤナギ林におおわれた河川（美瑛川）

全国的に河川環境に対する関心が高まって，道内でも魚道の整備や，河畔林造成が行われ始めました。ヤナギは河畔でもっとも普通に目にする樹木ですが，道内では10種類余りがみられ，それぞれにやや異なる生育特性をもっています。いずれのヤナギも非常に小さな種子を大量に散布し，湿った場所で直ちに発芽します。また，発根がよいため，多くは挿し木で増やすことができ，他樹種よりも水没に強いため，河岸での生育を有利にしています。

ヤナギ類の生育特性

冠水，滞水に耐える 低湿地向き	←→	長期の水没には弱い 排水良好地向き
タチヤナギ		ドロノキ☆
エゾノカワヤナギ	エゾノキヌヤナギ	＊オオバヤナギ☆
イヌコリヤナギ	ナガバヤナギ	＊クシロウヤナギ☆
	エゾヤナギ☆	シロヤナギ☆
		ネコヤナギ

＊：挿し木で増やしにくい樹種
☆：大径木になる樹種

最も普通にみられるナガバヤナギ（種子・6月上旬）

十勝川流域に多いケショウヤナギ（トッタベツ川）

冠水に最も強いタチヤナギ（雄花・5月中旬）